

Part 2 パッセージ型リスニング

1. パッセージ型リスニング問題の攻略法はこれだ！

英検1級の受験者にはこの**Part 2**が苦手と言う人が多いようですが、このパートは、問題がわかっていて選択肢を先読みする時間があり、語彙レベルも低いTOEICリスニング問題より数段難しく、一般の受験者が「攻略法」を知らずして高得点を取るの是非常に難しいでしょう。しかし、語彙レベルを高め、攻略法がわかればTOEICと同じように高得点を取ることは可能です。そこで、このセクションが苦手な人のために、スコアUPに向けた攻略法をまとめると大きく次の5つに分かれます。

1. 問題パターンを知る
2. 選択肢先読みによって問題や解答を予測する
3. 語彙力をUPし、パラフレーズに慣れる
4. 背景知識力をUPさせる
5. リテンション力を鍛える

1の問題パターンは後で詳しく述べますが、2の攻略法は、選択肢からフォーカスして聞く箇所を見抜くことです。4つのパートからなる英検1級のリスニング問題の中で、この攻略法が特に威力を発揮するのは、このセクションで、選択肢から問題あるいは答えの絞り込みまでも可能にする方法とは、

1. 共通事項を見抜け
2. Confusionを見抜け
3. コントラストを見抜け

の3つです。これだけは、できれば5分から10分の選択肢先読みによって、リスニング問題の放送を聞くまでに準備しておいてほしいものです。

さて、パッセージ・リスニング問題は、Part 3を除く他のリスニングパートと比べて難しく、なかなかスコアが伸びない受験者が多いようです。ここ数年の難問比率は平均48%で、Part 1が33%、Part 4が26%に対してかなり高い数値で、このセクションの難易度の高さを物語っています。つまり、ほとんどの受験者にとって、10問中約5問が間違いやすい難問というわけです。

よって、次に紹介する質問パターンや難問の正解パターンに慣れ、満点を狙えるようにトレーニングいたしましょう。

2. パッセージ型リスニング問題の質問パターンはこれだ！

質問パターンでは、よく出題されるものを頻度順に述べると、「意見・コメント」「原因・結果」「発見内容」「特徴・利点・相違点」「方法・手段」「必要・義務」などがあります。

●「意見・コメント(信念・感想・提案・主張)(opinion)」に関する質問パターン

最もよく出題されるものは「意見」、つまり「コメント(say about ~)」「信念(believe about ~)」「考え(think of ~)」「感想(feel about ~)」「提案(suggest about ~)」「主張(claim ~)」を問う問題で、全体のおよそ3割を占めます。

《「意見・コメント」を問う頻出質問文はこれだ！》

What is one argument that proponents of ~ make? (~賛成派の主張は?)

What does the speaker say about ~?

What does the speaker believe about ~?

What is one thing the speaker says is happening?

What was the speaker considered ~?

●「原因・結果(cause and effect)」に関する質問パターン

2番目によく出題されるのは、「原因・結果」に関する問題、つまり

《「原因・結果」を問う頻出質問文はこれだ！》

Why ~?

What was the underlying cause of ~?

What is one reason ~?

さて今度は、具体的にエッセイライティングと2次試験それぞれの攻略法を述べていきましょう。新傾向の英検1級ではエッセイのスコアは単独でカウントされます。そこで、このセクションのスコアが悪いと合格しないので、エッセイの苦手な人は攻略法を学んでしっかりとトレーニングする必要があります。まず攻略法は大きく次の5つに集約されます。

エッセイライティング攻略法

1. 賛成か反対かの意見のどちらが書きやすいかを判断する。
2. イントロ、結論を含め5つのパラグラフで書く。
3. 各パラグラフの頭はポイントから始め、それを必ずサポートする。
4. 200語から210語でまとめる。
5. 書いた原稿を必ず見直し、30分以内に仕上げる。

気持ち的に賛成であっても、反対の方が書きやすい場合は反対のスタンスでエッセイを書きます。例えば「世界平和は実現できるか」というトピックで、実現してほしい気持ちから肯定側で書いたものが、現実味に欠け、「**希望的観測 (wishful thinking)**」であった場合は、「もし〜であったら」のように条件をつけてしまって理由が弱くなったり（そうでなかったら、そうはならないと言っている）、そうなるための対策 (how) を書いてトピックからそれてしまったりしがちです。この問題では社会問題に関する認識（背景知識）と冷静な現状分析・判断力の有無もテストされています。

また、唐突に理由から始めるのではなく、必ずイントロで一般論を述べてからボディへと進み、最後に結論を書きましょう。イントロのテンプレートは後でご紹介します。またポイントは、First(ly), Second(ly) というふうに整理して必ず1パラグラフに1つのポイントだけを述べ、それをサポートする実例を書き、関係のない新情報や別のポイントを決して書かないようにしましょう。日本語のエッセイ（随筆）は、つれづれなるままに書いてもOKですが、英語のエッセイでは最悪のパターンです。これは日本人の苦手とするところなので、徹底的に特訓する必要があります。

長く書くとそれだけ時間がかかり、他の問題にかける時間が少なくなるので、

自分の字の大きさでは1行に何語ぐらい書けるかを知っておき、数えなくても200~210語に収まるのが理想です。それから殴り書いてそのまま提出すると、ほとんどの場合、非常にミスの多い作文となるので、**3分でアイデアを構築し、20分で書いて、それを3分で校正**できるようにトレーニングすればスコアは大幅に伸びるでしょう。

私は今まで33年にわたって2万以上のエッセイライティングを添削してきましたが、新傾向のエッセイライティング問題は評価が甘くなったようです。内容・構成がそれぞれ8点ずつ、文法・語彙がそれぞれ8点ずつの32点満点のわかりやすい評価方式となりました。まあまあそつなく書いておれば30点で評価は800点近くになり、妥当なキーポイントさえ浮かべばハイスコアは取りやすくなったと言えます。このエッセイは合否の決め手となる非常に重要なセクションなので、真剣に対策トレーニングをしましょう。

さて英語でスピーチをした後、試験官とのQ&Aセッションが数問ある2次試験の場合も次の5つの攻略法があります。

2次面接試験攻略法

1. 15秒で5つのトピックから1つを選び、45秒でスピーチのポイントを2つの英語の句で考えておく。
2. イントロはひな型を使い、必ず結論まで言い切り、Thank you for listening.で締めくくる。
3. 試験官の質問には30~40秒で60~70語の英語で論理明快に答える。
4. 試験官の質問に対してポイントがそれることなく、的確に答える。
5. キーワードにストレスを置いてメリハリをつけて話す。

2次試験ではスピーチを始める前に1分間の準備時間が与えられますが、この間に15秒で素早くトピックを選び、残りの45秒でスピーチのポイントを2つ、英語で考えておく必要があります。文ではなく「句」で考え出すことができれば、The first reason is possible labor shortage.のように言った後で、If ~ (もし~が起こったら)、there will be an acute labor shortage. のようにも